

論文内容の要旨

論文提出者	中島 正人
論文題目	Retrospective study of association between oral candidiasis and bacterial pneumonia
<p>(論文内容の要旨)</p> <p>口腔カンジダ症は、日和見感染症の1つであり、有病・高齢者において、しばしば罹患することが報告されている。特に、地域密着型病院に入院している多くの患者は有病・高齢者であり、歯科訪問診療を依頼された患者にも口腔カンジダ症が多く発症していた。その際、口腔カンジダ症を有する患者の多くが誤嚥性肺炎等の細菌性肺炎を併発していたことが判明した。調査した過去の文献では、口腔カンジダ症と細菌性肺炎の関連性について明らかとなった報告は皆無であった。その後の文献調査により、両疾患の多くのリスク因子が共通している事実が明らかとなった。以上の予備調査から、細菌性肺炎は口腔カンジダ症のリスク因子になるのではないかと仮定し、この関係を明らかにすることを目的に、本研究を開始した。</p> <p>調査対象者は、2014年5月から2016年10月にかけて2年6ヶ月の間に地域密着型病院から歯科訪問診療を依頼された全患者（228人：男性105人、女性123人）を対象とした。対象者の平均年齢は81.3歳（SD：11.1歳）であった。研究デザインは後方視的研究とし、単変量解析および多重ロジスティック回帰分析を用いて統計解析を行った。対象者の年齢や性別、入院に至る主病名、口腔カンジダ症、細菌性肺炎、および既存の口腔カンジダ症危険因子を調査し、さらに口腔カンジダ症と細菌性肺炎を併発していた対象者の喀痰培養検査の結果も調査した。</p> <p>調査の結果、口腔カンジダ症陽性者および非陽性者は、それぞれ44人と184人であった。多重ロジスティック回帰分析により、細菌性肺炎と口腔カンジダ症との間に統計学的に有意な関連性を認めた（オッズ比（OR）：5.173、95%CI：2.368-11.298）。また、口腔衛生不良（OR：6.095、95%CI：2.003-18.545）と重度口腔乾燥（OR：2.507、95%CI：1.031-6.098）にも口腔カンジダ症との間に統計学的に有意な関連性を認めた。</p> <p>喀痰培養検査から全15種の細菌が分離され呼吸器病原体を含む口腔周囲常在菌が多く検出された。</p> <p>以上のことから、地域密着型病院から歯科訪問診療を依頼された患者において、細菌性肺炎と口腔カンジダ症の間には有意な関連性があることが示唆された。</p>	